



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.155



3 月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段 2 階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2026 年 3 月 5 日

## Noto room ～能登に想いを馳せて～

副会長 野出木 貴夫

丁度 1 年前の協会だより 150 号で寄稿したのが「能登ヒバフォーラムに参加して」と題した拙稿であった。当時協会が能登ヒバサポーターとしてこのフォーラムに参加し、復興支援に協力しようと宣言したものの、その時点では具体的な策は未だ十分ではなかった。その後協会の正会員より木製建具の専門メーカーの阿部興業(株)を筆頭に、木製ブラインドのナニックジャパン(株)、木材販売・加工・木製品販売を手掛ける(株)長谷萬がサポーターに参加登録をいただき、ようやくプロジェクトのマッチングが見え始めたのが昨年の夏である。そして今年のホテルズ展で能登半島被災地復興支援委員会の報告ブースの一隅にホテルの 1 室を再現する「Noto room」を展示できたことは驚きであり、誇れる活動の成果ではないかと自負する次第である。

会場での展示設営状況をタイムラプス（コマドリ）撮影した動画を編集し、「Noto room～能登に想いを馳せて～」と題して YouTube に投稿した。会員の皆様には是非ご覧頂きたい（協会 HP に掲載済み）。能登が地震と洪水にて被災してほぼ 2 年が過ぎようとし記憶が徐々に薄らいでいく中、皆様には改めて「能登に想いを馳せて」いただきたい。

活動の成果として、能登森林組合、石川県木材産業振興協会に加えて ATE-NET に参加の能登地域の 7 事業者の方々と当協会の正会員 8 社の協力のもと、

この「Noto room」が完成したのであるが、これが成果の終わりではなく始まりと考えたい。これらのマッチングの成果をきっかけにしてさらに新たに発展していくことを期待したい。

一方でこの協会だよりが届くころには「3.11 東日本大震災」の報道が多くなるかと思う。すでに 15 年が経過したのかと思うと感慨深くなる。当時協会としても同年 8 月に現地視察を行い、11 月には観光関連の各団体の協力も得て遠野にて「東日本震災創造的復興シンポジウム」を開催したのをよく記憶している。しかしその後の復興支援が協会活動として果たして継続していたのか、また効果的な支援はあったのかなど反省の念をもって自問している。

当協会としてもこのような被災地復興支援の活動を立ち上げたのは当時初めての経験であり暗中模索であったのも事実である。その意味で今回の能登半島被災地復興支援は確かにこの 15 年前の支援活動の反省も意識しながら取り組んだ記憶がある。前回とは異なる取り組み方が今回は少し効果的な成果を生んだようにも思う。

一方で 15 年前の反省を反省にとどめるだけでなく当時の支援活動をリカバーすることも許されるのではないだろうか。「能登に想いを馳せる」とともに「東日本にも想いを馳せて」みてはいかがだろうか？

## 第 54 回 2026 年国際ホテル・レストラン・ショーの報告

ホテルズ実行委員会 委員長 末森憲義

第 54 回となった今年のホテルズ展は、東京ビックサイトの改修工事のため、いつもの東展示棟から移って西展示棟での開催となりました。不慣れな会場だったため、四苦八苦のスタートでしたが、結果的には 55,146 名の来場者となり、昨年から 1 割増の大盛況な会となりました。

協会ブースでは、各分科会の 1 年間の研究成果をモニターで発表。昨年より継続している「能登被災地復興支援」に加え、これからの可能性を示す「観光 DX」の展示にも力を入れました。たくさんの方が大画面の前で足を止め、会員企業のコラボレーションが生み出すシナジー効果に関心を示す姿が印象的でした。特別企画の「Noto room」は分科会の垣根を越えたメンバーの力を結集、一つの作品として力強い魅力を発信。会期中は村田観光庁長官も協会ブースの視察に来られ、内田インテリア分科会長自ら丁寧に説明頂きました。キーパーチャーとして協力頂いたベネチ庵も大好評で、会期中に何度も来場者の方から問合せを受けました。